

天
気
昭
和
四
十
一
年
十
一
月
十
五
日
發
行
三
每
月
一
回
三
卷
第
二
十
五
號
發
行
所
一
東
京
都
千
代
田
区
庁
大
手
町
日
本
気
象
学
会
印
刷
所
三
東
京
都
江
東
区
葛
西
五
ノ
木
永
井
佐
太
郎

D.H. Miller 教授 特別講演会

会 期: 12月2日(金) 15時より

会 場: 気象庁第1会議室

講演題目: 地表の水収支と熱収支について (通訳 榎根勇博士)

D.H. Miller 博士は Wisconsin-Milwaukee 大学教授で、かねてから、地表の水収支と熱収支を総合的に取扱つた研究で知られている。最近の著名な研究としては次の論文が挙げられる。

Miller, D.H., 1965: The heat and water budget of the earth's surface. *Advances in Geophysics*. Vol. 11, 175~302.

主題: 気象統計

会期: 12月2日(金) 10時より

会場: 気象庁第1会議室

研究発表

1. 田中 甫(防衛庁): 東京の温度極値のクロス・スペクトルについて
2. 田中 甫(//): 東京周辺の極値気温分布
3. 鈴木弥幸(気象庁): 気象観測における平均時間の問題
4. 野呂恒夫(新潟気): 新潟県における雪の気候
5. 星野 保(気象庁): 天気予報の監査について
6. 荒井 康(気象研): 長波の季節変動について
7. 広瀬元孝(気象研): 北半球 500mb 半旬平年値の統計解析
8. 今井省吾(都立大): 天候と心理との関係の調査における測定法と統計的処理法

主題: 高層気象

座長: 小林寿太郎(気象研高層物理研究部)

日時: 12月1日 13時30分

場所: 気象庁第1会議室

発表論文(アブストラクトは373~374p):

1. 高層大気の電氣的観測……………内川 規一
2. 1965年12月の亜成層圏ジェット気流について……………鹿野 到
3. Radio Sonde 観測の 100mb 面高度実測値と 105, 110, 115, 120mb 面より外挿により求めた高度推定値との関係について……………迎 正秋
4. 鹿児島における2重圏界面の考察……………坂井 泉
5. 露点ゾンデによる水蒸気と放射冷却率の垂直分布と大気の垂直構造……………関口 理郎
6. 仙台におけるレーウィンによる低層風の解析……………村上 博
7. 放球塔の風洞実験について…中村繁・五月女敬太郎
8. ゾンデ落下点の推定について……………三浦 四郎
9. air curtain 式放球塔について……………中村 則行